

## 仙人通信 1 4 2 相馬山(1441 m)

相馬山は、榛名山のカルデラの東側に出来た溶岩円頂丘で、水沢観音の上にある水沢山・二ツ岳と並んで烏帽子のような形をした山である。一方榛名山は、那須火山帯の最南端の山で、掃部ヶ岳を最高峰に榛名湖近くにある榛名富士を中心に、カルデラに出来た多くの溶岩円頂丘から構成されており、相馬山は6世紀後半に出来たとされている。

今回は、伊香保温泉から榛名湖へ繋がる県道33号線を進み県営グラウンドにある駐車場(海拔1100 m)から、『関東ふれあいの道』のある『ユウスゲの道』からのピストンである。駐車場から道路を挟んで反対側にある木道から始まる『ユウスゲの道』がスタート点である。この時期は、ホトトギスが甲高く鳴き、赤からオレンジ色の各種のレンゲツツジが一面に咲き誇り、その先に榛名富士がどんと構え・絵になる。足元では、黄色いキンポウゲとニガナが見事だ。20分位進んだ地点に『関東ふれあいの道』の道標があり、磨墨岩(直立した10 m程の岩)のある『するす峠』に向かう。コースは咲終わったヤマツツジやミズナラに覆われた、真っすぐに伸びる整備された階段で、10分程で南面の開けた『するす峠』である。峠の休憩所には、解説板も整備されており、するす(磨墨)とは粉を引く臼との事とある。垂直に聳える相馬山を目の前に、ハルゼミに後押しされての尾根道だ。火山岩で整備された50段程の階段を摘めると『相馬山』と書かれた鳥居で『ヤセオネ尾根峠』方面と別れ、鳥居を潜る。幅の狭い急な登りとなり、10mm程の太さの幅30cm程の鉄製の階段と15cm程のリングの鎖の登りとなる。横には蕾のトリアシヨウマやマイズルソウが散見される。鉄製の階段は3ヶ所に架けられている。山頂に近づくに従いヤマツツジも見事に咲いて居る。最後の階段を登ると薄いピンクに縦縞の入ったヨウラクも見事だ。山頂の手前で、黄色いヤマオダマキが3輪迎えてくれ、うれしさが込み上げた。歩き始めてから1時間20分で山頂である。相馬山の山頂には黒髪神社(大山津見神を祭神とする旨掲示あり)が祀られている。山頂は南面が開け、前橋・高崎・富岡等の街並、そして御荷鉾山から角落山までの西上州の山並みのパノラマだ。手元には白いヒメウツギ・黄色いニガナ・キンポウゲが咲きこの上ない。30分程休憩後、先ほどの鳥居まで戻り、県道沿いにある大きな鳥居のある『関東ふれあいの道』の『ヤセオネ峠』に下山し、国道沿いを500 m程歩いた後、『ユウスゲの道』を指す道標に従い進み、アマドコロ・レンゲツツジ・オウバコ等の写真を撮り、のんびりと車に戻る3時間(12000歩)の山旅でした。 h 2 8 . 6 . 1 0

鉄製の階段



山頂



山頂の尾根に咲くヤマツツジ

